

最年少かつ唯一の女性

池井晴美氏が受賞

日本農学進歩賞

池井晴美千葉大学環境健康フィールド科学センター自然セラピー研究室特任助教が、第20回日本農学進歩賞を受賞した。

「木材の嗅覚・触覚・視覚刺激が人にもたらすリラククス効果の解明」の業績が評価されたもの。

これは、日刊木材新聞の連載「木と人のサイエンス」で紹介した

内容は、財団法人農学会が主催し、当該年度の10月1日時点で40歳未満、農林水産業やその関連産業の発展に資するため、農学の進歩に顕著な貢献をした人が対象となる。

同氏は、11人の受賞者のうち最年少（受賞時31歳）かつ、唯一の女性受賞者となった。

11月26日には、東京大学農学部弥生講堂において、受賞者と関係者のみで授賞式と受賞講演会が開かれる。

同賞の受賞について池井氏は「研究者として

未熟な私が、榮譽ある賞を賜り、驚くことにもうれしく思う。これからは「木材の高付加価値化・利用促進につながる研究活動にまい進していく」と語った。



池井 特任助教